

## 交流フォーラムにおける「玉城勝田ぶどう祭り」との連携について

三重県戦略企画部企画課

### 1 「玉城勝田ぶどう祭り」との連携について

「玉城ぶどう祭り」は、玉城町勝田地区の産品であるブドウを広くPRするとともに、生産者の応援や地域の活性化につなげ、生産者と消費者のかけ橋とするイベントです。

平成24年8月18日(土)に開催された第2回「玉城ぶどう祭り」では、県が実施する「高等教育機関と地域との連携の仕組みづくり推進事業」と連携いただき、高田短期大学の学生9名も参加し開催されました。

「第2回玉城勝田ぶどう祭り」  
日時：平成24年8月18日(土)  
場所：玉城町勝田  
主催者：玉城町青年交流会、玉城町商工会他  
協力：三重県、高田短期大学他



### 2 オリエンテーションの実施、事前準備への協力について

イベント協力にあたり、参加学生に地域の皆さんの活動を知っていただくことを目的にオリエンテーションを開催するとともに、ぶどう祭り開催に向けて地域の皆さんと準備作業を行いました。

#### 1) オリエンテーションの実施について

学生の皆さんに協力いただく内容の説明と、ぶどう祭り実行委員会の皆さんとの顔合わせを兼ねて、以下のとおりオリエンテーションを実施しました。

日時・場所：7月27日(金) 18:00~21:00 玉城町勝田「野の花亭」

参加者：高田短期大学より学生代表2名、生産農家、実行委員、三重県企画課他

#### 実行委員会の皆さんとの意見交換の概要

(実行委員会より、ぶどう祭り当日に学生に協力いただく内容を説明後、意見交換)

##### <生産農家>

- ・ 地域の生産農家が担い手が不足を理由に畑をやめていくことを寂しく思っている。
- ・ 農業は日本の礎となるものと考えているが、十分な収入に繋がらない状況にあり農業離れが進んでいると感じる。

##### <実行委員会>

- ・ 生産者も産品の加工やPRなどの面で意識改革が必要と感じる。
- ・ 第1回のぶどう祭りアンケートをとったが、9割近くの方がまた玉城町のぶど

うを購入したいと回答している。

- ・ このまま静かに営農していきたいという方もおり、地域でイベント等の取組をするには周囲の合意形成が難しい部分もある。

#### <商工会>

- ・ 兼業農家でないと生活できない状況や担い手不足など、農家の実情をまず知ってほしい。

#### <学 生>

- ・ 農家の方や地域の方のお話を聞いて、率直な感想として「大変そうだ」と感じるが、農業という仕事自体は今の若い世代にとって魅力的な部分もある。

(意見交換後、学生と実行委員会の方とで看板製作等の軽作業を実施)

## 2) 事前準備への協力について

学生と実行委員会の皆さんで案内表示の作成などの準備を行いました。

- 日時・場所：8月17日(金) 10:00~18:00 玉城町勝田「野の花亭」
- 参加者：高田短期大学より教員1名・学生9名、実行委員、三重県企画課他

- それぞれの学生の役割の決定
- 開催準備
  - ・ テント設営、のぼり設置など会場の準備
  - ・ ぶどうアイス、カレーなど食材の仕込み
  - ・ 看板製作など



### 3 「第2回ぶどう祭り」開催当日の協力について

イベント当日は来場者のご案内など、参加学生の皆さんにも役割を担っていただき実施しました。

- 日時・場所：8月18日（土）8:00～18:00 玉城町勝田「野の花亭」周辺会場
- 参加者：高田短期大学より教員等2名・学生9名、実行委員、三重県企画課他
- 来場者数：約1,500名

#### 1) 学生の主な協力内容について

参加学生は、主に以下の内容について協力しました。

- 「紙芝居」(1名) ※子供向け紙芝居を補助
- 「ぶどう狩り、量り売り」(3名) ※ぶどう狩りはぶどうの成育状況次第
- 「野菜の直売」(1名)
- 「ぶどう娘」(2名) ※会場内でのPR、ぶどうマップ配布など
- 各種イベントの受付(2名) など

(当日の様子)



## 2) 実行委員会や生産農家といった主催者と参加学生からの声 主催者（地域）から見た学生の参加について

- ・ 孫のような若い世代の皆さんに参加いただいて大変楽しい開催となった。
- ・ 地域外の学生も多く玉城町に来ていただいて、勝田地区を知ってもらうのは大変良いこと
- ・ 学校等での周知方法等も工夫し、地元や近接地域の学生に多く参加してほしい。
- ・ 地域活動を通じて地域の良さを知り、地域に残る若者が増えれば良い。
- ・ イベントを実施するにも担い手不足の課題があり、若い世代に来てもらうことで周囲に活気を与えてもらえる。
- ・ ぶどう祭りと高等教育機関との連係は新たな試みであったため、今年はできなかったが、今後は企画段階から参加してもらい自分たちで作り上げるものとしての意識をもって参加してほしい。

### 参加学生からの感想

- ・ ボランティアとして単位認定されるということで参加したが、非常に楽しく参加できたので良かった。
- ・ 友人同士で参加できるので気軽に参加できた。
- ・ 地元でこんなイベントが開催されていたこと自体知らなかった。

## 4 交流フォーラム「玉城ぶどう祭り」の振り返り

### 1) 「玉城ぶどう祭り」を通じて気づいたこと 高等教育機関にとって

今回ご協力いただいた高田短期大学では、学校が認めた地域貢献活動へ2日間参加することで単位を取得できるというカリキュラム化が、一部の学科において先進的に導入されていた。

私立大学を中心に県内他大学でも、教育カリキュラムの特色化を進めるなかで、ボランティア等の単位化が検討されている。このような背景をふまえれば、学生にとって学びの機会となる良質な地域活動の場を行政等から提供していくことは、県内高等教育機関にとってもメリットがあるものと考えられる。

### 学生にとって

参加学生からは「地元で開催されるイベント自体を知る機会が乏しい」、「参加ルートがない」という声があった。学生にとって学校周辺で行われる地域活動の情報は大学等を通じて比較的に入手しやすい一方で、大学から離れた地域に居住する学生が地元で行われる活動の情報を得る機会は少ないことが想定される。

また、学生が地域活動へより気軽に参加できる環境をつくるためには、友人やサー

クル等の仲間と一緒に参加できる機会を提供することが必要と考えられる。

#### 地域にとって

高齢化等の影響もあり、今後、地域で大掛かりな取組を行う場合には担い手不足が課題となるケースが想定されるが、地域を越えて学生の支援を受けることでイベント等を開催することが可能となるケースもあると考えられる。

また、若い世代の参加自体が地域に活力を生み、住民の皆さんのやる気やより積極的な参画に繋がる効果もあるのではないかと考えられる。

## 2) 課題と今後の展開について

### カリキュラム化とボランティア精神の醸成の関係

学生の地域活動への参加を促す手段として、カリキュラム化は効果的と考えられる。

しかしながら、カリキュラム化を行った場合、活動時間や学生が担う役割(安全性)などの面で一定の制約がなされることになる。このことで、本来のめざしていた「地域活動を通じたボランティア精神の養成」等の効果が十分に期待できなくなる恐れがあるという意見もあった。

今後、各高等教育機関でのカリキュラム化の検討や県が進める高等教育機関と地域との連携の仕組みづくりのなかで、より良い参画の手法を議論していく必要がある。

### 高等教育機関の知的資源を地域に還元するための工夫

今回の協力内容は、地域の方との交流やイベント自体を楽しみながら参画できた点で、学生にとって参加のハードルが低く気軽に参加できるという効果があった反面、地域の課題についてもより深く理解し、その解決に向けた若い世代からの具体的な提案や高等教育機関のもつ知的資源の地域への還元には至らなかった。

イベントへの協力という手法は、学生に広く地域活動参画のきっかけを提供する意味では効果的であるものの、本来期待される高等教育機関の知的資源を地域に還元するためには、より深く地域の課題を考える機会を提供できる手法や、学生の専攻をふまえたマッチング等の方法を検討する必要がある。

### 活動の持続性

地域と高等教育機関の間で継続的で持続可能な連携を一層進めるためには、双方のメリットを再確認する機会が必要であるとともに、一過性のイベント以外にも年間を通じた交流の機会が必要と考える。

今後、開催を予定している「事業コンテスト」や知事とのすげいやんかトーク等を活用するなど、あらためて地域と高等教育機関の双方がメリットを認識できる場を提供するなどして、継続的な交流を促進する必要がある。